



Japanese Studies

日本学専修

日本学と聞いてどんなことをイメージしますか？ 文学や史学といった他の専修と比べるとイメージがしにくいかもしれません。それは、日本学が学際的な研究や教育を目指す領域だからです。日本学専修は、日本を自明なものとして捉えるのではなく、歴史学、民俗学、人類学、文化研究、ジェンダーセクシュアリティ研究、表象分析といった多様な方法と視点から日本にアプローチします。そして、一国的な研究の枠組みではなく、日本を広く超えて展開される新たな日本研究の可能性を模索しています。そんなスリリングな知的作業に、あなたも加わってみませんか？

当たり前を考えなおす。それが日本学。

日常生活で当たり前だと思っていることは、本当に「当たり前」なのでしょう？ そうした気づきを一緒に探し、探求する場が日本学です。

日本学専修がめざすもの

内向きになりがちな日本への関心を多様に開き、さまざまな関係性の中で日本を捉えなおすことで、新たな日本研究のあり方を模索しています。

<http://japanese-studies.jp/>

教員

| | |
|----------|-----------|
| 平田由美 教授 | ひらた・ゆみ |
| 北原 恵 教授 | きたはら・めぐみ |
| 宇野田尚哉 教授 | うのだ・しょうや |
| 北村 毅 准教授 | きたむら・つよし |
| 安岡健一 准教授 | やすおか・けんいち |

どんな授業があるの？

【講義題目】

戦後日本史
戦後社会運動とメディア文化

【演習題目】

同時代史研究
『思想の科学』を読む
戦後民主主義論を読む



何を学んでいるの？

日本学演習

論文の読み方や書き方、文献調査・インタビュー・プレゼンテーションの仕方など、基本的なアカデミックスキルを学びます。

比較文化学演習

近現代日本の社会・文化について、ビジュアルを含む史料をジェンダーなど多様な視点から読み解く力を養い、議論する演習です。

文化交流史演習

「現代」につながる文化・社会の変容について、資料を読み、人の話を聞き、成果をまとめることを通じて学び続ける力を養う演習です。

日本思想史講義

近世・近代の日本における思想史の展開について、言説と社会の関係性を重視しながら考察します。

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

奈良R・Rセンターという「経験」

—「バンバン」をめぐる人々の交流史—

奈良R・Rセンターは、日本が「独立」を果たした直後の1952年5月、奈良市内に作られた米軍の慰安施設です。朝鮮戦争の前線で戦う米兵たちを数日間休ませるために設置されたこの施設の周辺には「バンバン」も多く集まりました。彼女たちはいったいどんな女性たちだったのか？ センター周辺地域ではどのような変化がもたらされたのか？ 筆者は史料を丁寧に掘り起こし、当時の様子を知る人々に聞き取り調査を行うことによって、奈良R・Rセンターをめぐる個人の経験を「交流」の歴史としてとらえ直そうとしました。歴史をどのようにまなざし描くのかを問いかける本論文は他領域の研究にも多くの示唆を与える秀作です。（選：北原 恵 教授）

【卒業論文題目】

「奈良のシカ」をめぐる環境と民俗—神使から観光資源へ
「里親家族」の可能性—交流スペースeトコの事例から
平和学習修学旅行と折り鶴の役割

—大阪府における実践事例から
卒業はどう歌われるのか—桜の表象をめぐるって
アニメ雑誌投稿で見るオタク女性の自己表現
—1980年代から現代まで

現代日本における「韓国」観
—2019年夏、大阪・生野コリアンタウンでの聞き取りを中心に
合気道における修心性の継承
—植芝家と「道統」の関係性をめぐって

物事の表層に捉われない視点を身につける。

奈良林さんは現在、どういうテーマで勉強しているのでしょうか？

奈良林 いま私が興味を持っているテーマは「選択的夫婦別姓」についてです。今の制度だと、結婚した時に必ず当事者の片側だけが名字を変えなければなりません。それに、多くの場合で名字を変えるのは女性の側です。このことへの疑問からこのテーマを選びました。

現在、日本学では学部生が自主的に研究会を行なっているそうですね。

奈良林 はい、参加者それぞれの関心から論文を選んで一人が発表し、皆で議論しあう、というかたちでの研究会をやっています。

このあいだ様子を覗いたら議論が白熱していましたね。

奈良林 時々熱を帯びることがあるんです（笑）。以前には、ボーヴォワールの『第二の性』を読んだ時にそんなことがありました。ただ、2年生から4

年生まで参加しているんですが、それぞれ発言しやすい雰囲気ということもあると思います。

研究会での勉強は、どのように自分の研究テーマと繋がるのでしょうか？

奈良林 日本学では学生それぞれが全然違うテーマで勉強をしているので、お互いに知らない分野を共有しながら勉強することで、視野が広がる、ということがあると思います。

日本学の授業で印象に残っているものはありますか？

奈良林 2年生必修で「日本学事始め」という授業があるんですが、その授業では文献の探し方からレポートや論文の書き方、パワーポイントでの発表の仕方など、大学での勉強に必要な基礎的な知識や技術が学べて、今でもとても役に立っています。

基礎的なスキルが

学べる、という点は重要ですね。

奈良林 あと、日本学の専門科目に共通していることだと思うんですが、文献や資料に書かれてある事だけじゃなくて、その背景や文脈から読み取れることは何か、ということが常に求められますね。物事の表層だけに捉われない視点、というのが大事だと学ぶことができたのは大きかったと思います。

後輩へのメッセージ

最後に一言お願いします。

奈良林 日本学は現代の社会やそこに繋がる歴史について、色々な視点から考えることのできる研究室です。特に、今の社会にちょっとでも疑問や違和感を持っている人は、日本学でその点を突き詰めて研究することができますので、まずは研究室に遊びに来てください。

[インタビュー協力]
奈良林朋美（3年）

日本学で留学？と思われるかもしれませんが、日本学で留学できます！私は今、イギリスのイーストアングリア大学（UEA）で1年間の交換留学をしています。UEAでは歴史学を専攻し、日本の歴史について教科書には載っていないようなことや、日本にいた時には議論にならなかったようなことまで学ぶことができ、新鮮で楽しいです。そのほかにも、イギリスの歴史の授業も多く開講されているので、日本以外の社会を知り、改めて日本社会を振り返るうえでも意義深いものとなっています。日本研究は日本だけでなく、他の国、地域でも盛んです。海外留学してまで日本のことを勉強するの？とよく驚かれますが、留学は単なる語学勉強ではなく、自分が学びたいこと、知りたいことをさらに深める大きな経験だと思います。

留学生活は想像以上に大変です。

飛行機から降り立てばそこは既に別世界で、新たに住む街や大学、寮も別世界でした。海外旅行もほとんどしたことがなかった私にとっては、留学だけでなく「海外に行く」ということから不安だらけでした。キッチンやシャワーの使い方が違ったり、食べ物も口に合わなかったり、何より言葉の壁はとて大きく、友達もなかなかできませんでした。徐々に慣れてきましたが、留学前の期待と、実際に留学先に来て「生活」をする苦勞の差は大きかったです。と、ここまで見るとやっぱり留学って大変なんだ…と諦めてしまいましたが、そんなことはありません。最初は誰だって大変ですし、苦勞も半端ないです。大阪で1人暮らしし始めた時と同じです。困難をどう乗り越えるかは自分次第で、この過程が何よりも学びとなることと思います。私はまだ留学生活の途上にいますが、留学後の

自分がどうなっているのか既に楽しみでワクワクしています。

まずは先輩の留学体験記などを読んでイメージをつかんでみてください。そこから、具体的な留学制度について調べたり、準備をしたり…やることは山ほどありますが、どれも後から振り返ればよい思い出です。こんな国や地域に行ってみたい、自分の専門分野を日本以外で学びたい、何か新しいことに挑戦したい、何でもいいです。少しでも留学に関心があれば、ぜひチャレンジしてみてください。

[寄稿]
野田朝香（3年）



イーストアングリア大学キャンパス風景